「領主ヘロデの困惑」　2023年04月28日

ところで、領主ヘロデは、これらの出来事のすべてを聞いて困惑した。というのは、イエスについて、「ヨハネが死者の中から生き返ったのだ」と言う人もいれば、「エリヤが現れたのだ」と言う人もいて、さらに、「昔の預言者の一人が生き返ったのだ」と言う人もいたからである。ヘロデは言った、「ヨハネなら、私が首をはねた。では、耳に入って来るこの噂の主は、一体、何者だろう。」そして、イエスを見てみたいと思った。（ルカ９：７～９）

主イエスの「神の国」の宣教は時代の価値観をひっくり返し、人間回復の喜びの福音としてガリラヤ、ユダヤを始め、異郷地までも多くの人々に知られるようになっていった。

その頃、領主ヘロデは主イエスの出来事を伝え聞いて、困惑した。ヘロデは、エルサレム神殿を建てたヘロデ大王の息子で、ガリラヤとペレアを治める領主であった。彼は、主イエスは洗礼者ヨハネが生き返ったのではないかという噂を聞き、自分が首をはねたヨハネのことを思い起こし、心穏やかでなくなったのである。

ヨハネがヘロデに殺害された事情は、マルコ福音書6章に記されている。ヨハネは、エルサレム神殿の祭司ザカリアの一人息子であった。将来、祭司になるように育てられたに違いない。ところが、成人したヨハネは神殿を捨て、荒れ野に立ち、旧約聖書の預言者エリヤのいで立ちで、悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。彼の身を捨てた生き方と、激しく、真実な説教に民衆は心を動かされ、洗礼を受けた。彼の洗礼運動は全ユダヤを揺り動かすほどの宗教覚醒をもたらし、ヨハネへの信望は大きく膨らんだ。彼は律法を遵守し、信仰者として正しい生き方をするように説いた。時に、領主ヘロデは、兄弟フィリポの妻ヘロディアを奪い、結婚した。ヨハネは、「あなたの兄弟の妻を犯してはならない。それはあなたの兄弟を辱めることである（レビ記18：16）」という律法に反すると、抗議した。一介の野にあるラビからの抗議に怒ったヘロデはヨハネを捕らえ、投獄した。しかし、ヨハネの真実な説教を聞いて恐れ、保護し、殺せないでいた。ヘロデの誕生祝いの宴席で、ヘロディアの連れ娘が踊りを踊り、ヘロデや来賓の客を喜ばせた。ヘロデは、欲しいものを上げようと誓うので、母ヘロディアに相談すると、母は「洗礼者ヨハネの首を」と答えた。ヘロデは当惑したが、誓った手前、ヨハネの首をはねさせた。ヨハネは、宴会の余興で、殉教させられたのである。これらの出来事は、ヨハネへの信望を更に深めた。

主イエスの愛と真実はヨハネが生き返ったという評判を生んだ。また、ある人々は、主イエスは「エリヤが現れたのだ」と言った。エリヤはカルメル山で異教の神バアルの450人の預言者とたった一人で戦い、ヤーウェの神の真実を表わし、勝利した預言者である。イスラエルでは、エリヤは預言者の中で、最も尊敬されていた預言者であった。主イエスをエリヤだと評する人々がいた。また、「昔の預言者の一人が生き返ったのだ」と言う人もいた。預言者は神の言葉を真っ直ぐに民に告げる人で、彼らの働きによって信仰が育くまれ、社会は正されてきた。その預言者が生き返ったと評する人々がいた。主イエスは、洗礼者ヨハネ、エリヤ、預言者のような人として尊敬され、受け止められていた。

領主ヘロデは、主イエスに対する民衆の高い評判を聞き、自分が首をはねたヨハネを思い起こし、「この噂の主は一体、何者だろう」と心が揺れた。そして、ヨハネの真実を恐れたヘロデは、主イエスに会ってみたいと思った。